

# 事業別戦略 — 産業電池電源事業

## 事業部長メッセージ

私は産業電池電源事業を成長軌道に乗せ、必ず拡大させるべく活動しています。当事業の基盤である非常用分野では、新たな展開が始まっています。Chat GPTに代表される生成AI、レベル5が近未来に実現される完全自動運転、生活インフラの一つとなったスマートフォンなど、どれも情報の収集・蓄積・発信・処理のための通信基地局・データセンターなどがより一層必要となり、それらの設備には有事のための非常用電池電源が配備されます。当社は、国内での圧倒的技術、圧倒的販路、圧倒的シェアを誇る同分野で、新たな飛躍を期待しています。第二の事業の柱となる常用分野では、脱炭素社会実現に向けた取り組みが後押しし、グローバルで蓄電ビジネスが顕在化しています。本分野は単に事業の拡大にとどまらず、社会課題の解決にも資する取り組みでもあります。

このように産業電池電源市場が形を変え、多様化する中において、非常用、常用、フォークリフト用の3分野に共通する要素技術や新商品の開発を効率よく進め、スピード感をもって商品とサービスの充実を図っています。また、これから欠かせないのは、DE&Iやリスクリングによる変革人材の醸成、DX、AIによる業務の効率化、ルーティーン業務の可能な限りの自動化といった、経営基盤のさらなる強化です。付加価値の創造や伸ばすべき事業にリソースを配分できる体制を構築していくことで、事業成長に繋がると考えています。



(株)GSユアサ 常務執行役員  
産業電池電源事業部長

中村 泰之

GSユアサの「価値創造」  
～価値を生み出す着実な進化～

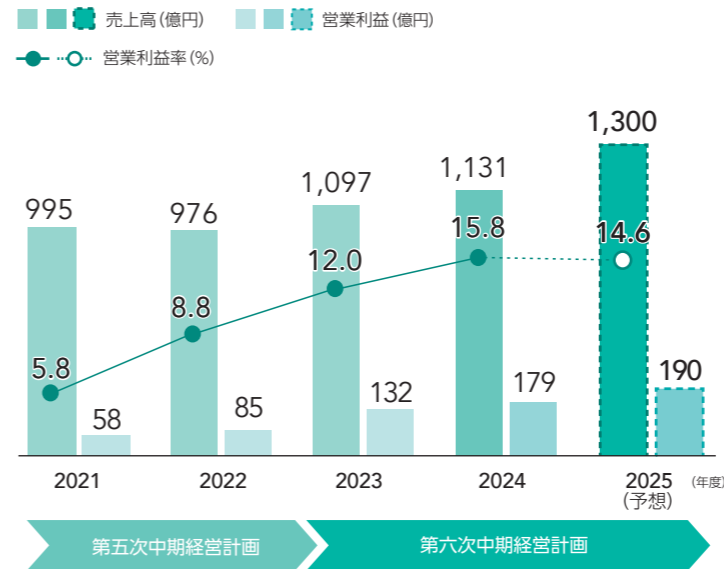
価値創造に向けた  
「全社戦略」

価値創造に向けた  
「事業・技術戦略」

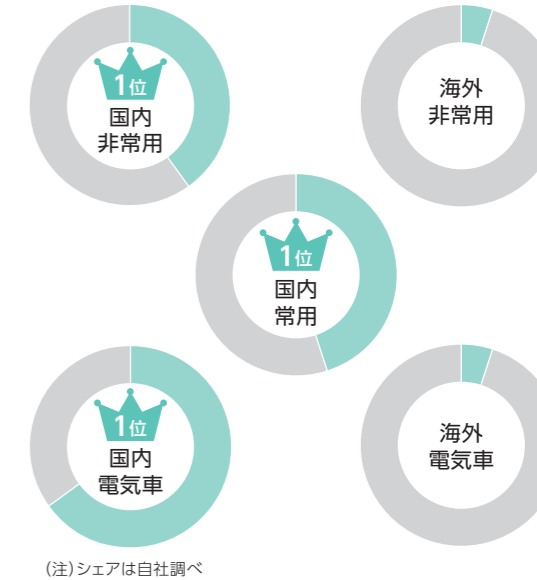
価値創造を支える  
「基盤」

コーポレートデータ

## 業績推移



## 売上シェア (2024年度)



## 第六次中期経営計画における事業方針

次世代の成長を取り込む事業基盤の構築

## 第六次中期経営計画における戦略および重要課題

非常用分野 (国内)	取り組み	進捗
非常用分野 (国内)	■ 販売体制再構築による組織の最適化	■ 顧客目線での組織の再編を実行
	■ 鉛蓄電池の「環境循環型商品」へのイメージチェンジ	■ 100%リサイクル、循環型社会への対応強化
非常用分野 (海外)	取り組み	進捗
非常用分野 (海外)	■ 海外生産拠点への先行技術投入	■ CO <sub>2</sub> 削減 (カーボンニュートラル) のための製品開発
	■ 2ndブランド活用によるOEM調達推進	■ 地域別、用途別、顧客ニーズに合致する製品ラインアップ強化
常用分野 (国内)	取り組み	進捗
常用分野 (国内)	■ 旺盛な需要に対応するための生産能力の確保	■ 製販連携の最適な生産計画により対応
	■ PCSを併設したESS新商品による販売拡大	■ 旺盛な引き合いに対し、増産体制を構築中
フォークリフト分野	取り組み	進捗
フォークリフト分野	■ フォークリフト用鉛蓄電池新工場の稼働による効率的な生産体制の構築	■ 生産ラインを導入し、順次稼働を開始
	■ タイをハブとしてアセアンを中心としたグローバル進出	■ 未開拓地域への対応、新規顧客探索を推進

## SWOT

<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国内での高いプレゼンス</li> <li>■ 全国に広がるサービス網とコトづくりによる安心・安全の提供</li> <li>■ 設計から製造・施工、メンテナンスまでの一貫体制 (All in one)</li> </ul> <p><b>強み</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 海外における低いシェア</li> <li>■ 自社製リチウムイオン電池の安価対応 (中国製に勝る)</li> <li>■ グローバル対応のための生産能力</li> </ul> <p><b>弱み</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 再生可能エネルギー市場の拡大に伴う環境配慮製品の需要拡大</li> <li>■ BESS (Battery Energy Storage System) の市場成長</li> <li>■ フォークリフト市場のバッテリー式への移行</li> </ul> <p><b>機会</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 再生可能エネルギー市場での海外競合の進出</li> <li>■ フォークリフト市場でのリチウムイオン電池化の進展</li> <li>■ 中国のリチウムイオン電池メーカーの日本進出</li> </ul> <p><b>脅威</b></p>

## TOPICS

### 生成AIの普及に伴う対応

生成AIの爆発的普及に伴い、米テクノロジー大手GAFAMはIDCの電力需要を賄うため電力調達拡大に動いている一方、電気代削減のためのピークカット、ピークシフトの検討を行っています。また、安全性、信頼性を担保するための停電時対策強化の動きもあります。これらの対策には蓄電設備設置が必須とされているため、当社ではこの需要拡大に対し、鉛蓄電池およびリチウムイオン電池の販売拡大を図っています。

